

令和元年度国内視察研修の行程

DAY 1 2月25日(火) **ガレージから世界へ**
 ~ビジネスを生み、世界を変えるベンチャーを学ぶ~

新型コロナウイルスの感染拡大により、直前になりシンガポールに行くことができなくなり、東京都内で開催することになった今年度の研修。
 日本国内で世界を視野に新しい事業に取り組む企業の協力の下、学生たちのアイデアを発信し、ディスカッションする場をいただきました。東京に到着すると早速、Center of Garageにて研修開始です。意気消沈している暇はありません。ここでは導入研修の後、施設の見学を行いました。その後、夕食会場にて決起集会を行いました。



DAY 2 2月26日(水) **大企業を通して未来を見る**
 ~企業が挑む世界の社会課題の解決~

2日目は三井化学株式会社と大日本印刷株式会社を訪問しました。
 いよいよプレゼンテーションの本番です。初めてということもあり、ガチガチに緊張する学生。思ったよりも自分の伝えたいことが相手に伝わらない、問題と解決策の間に時間がありすぎるなど、やってみないとわからないことがたくさんありました。
 落ち込む暇もなく昼食の時間も午前中の振り返り、プレゼンテーションの資料の改善に黙々と取り組みます。その甲斐あってか、午後の発表では1回目よりも自信を持って発表する、たくましい学生の姿がありました。
 さて、明日は早くも最終日。ホテルに戻ってからも「共感を得る」プレゼンテーションの準備に、余念がありません。



DAY 3 2月27日(木) **なぜ今、世界がアジアに注目しているのか**

ついに迎えた最終日は、日本ユニシス株式会社と、リアルテックファンドを訪問しました。前日は5分のプレゼンテーションでしたが、この日は3分と短くなった分、自分の本心に伝えたい部分はどこなのか、より洗練されたものとなりました。
 今回の研修でベンチャー企業、大企業、ベンチャーキャピタルなどによるエコシステムを体感した学生たちは、「アイデアを実現するには帰ってからでもまだまだやる必要がある」と本気で拍車がかかりました。そして、そこから自分たちがどう変わるべきか、ということを取り組むという成長があったはず。
 3日間、お疲れさまでした！



令和元年度国内視察研修の参加者の感想、後輩たちへのメッセージ(抜粋)

参加学生たちの未来へつなぐメッセージです

福島大学1年 八幡 佑奈

今回の研修で私は、企業の方にフィードバックを受けて何度もプレゼンテーションを作り直すという貴重な経験をしました。自分が何をしたいのか混乱することが多々あり、その度にたくさんの方々から助けていただきました。その結果、忍耐力と度胸を得ることができたと思います。事前研修から何度もフィードバックを受けて心が折れそうになりながらも、何とか仕上げることで忍耐力がつかまりました。発表するには未熟なことがわかりつつも発表しなければならぬような場に身を投じることで度胸がつかまりました。

日本大学工学部4年 高橋 啓成

私は、今回の国内研修が始まるまで、ヒアリングの時のプレゼンでまったく解決策も課題も納得できず、不安でいっぱいでした。しかし、研修を受け、時間の経過と共に自分の課題が洗練されていき、3分プレゼンを作るころには、必要な課題がはっきりと見えました。企業で解決策となるテクノロジーは沢山あるので、課題が大事と言っていたことの意味がわかったような気がします。これからは課題に対して、適切なテクノロジーは何かを探し、そのテクノロジーを使ってどのように工夫して、クリアできるかを考えていきます。

福島大学1年 栗田 実歩

自分と向き合う、自分が何を考えているのかを見つけるのはとてもつらい作業でした。しかし、自分の考えを見つけるたび、道がはっきりしていくような感覚で、自分が何をやりたいたいのかが徐々にわかってきました。
 また、自分の考えがあっても、伝えられなくては独りよがりになってしまうと気づき、落ち込みました。しかし、このことも自分の糧となりました。後輩たちには、嫌だと感じることも含めて成長につながることを伝えたいです。

会津大学3年 トウ イウアン

この3日間、私は新しい仲間ととても有意義な時間を過ごしました。それは忘れられない経験になったと思います。
 この研修中、さまざまな企業の方々からプレゼンテーションを行い、私は多くの興味深く、かつ有意義なフィードバックを受けました。これらのフィードバックは本当に言われてみればそのとおりであると思うものであり、かつ実用的なものであると思います。
 この研修で得た何よりも大切なことは、この研修に参加して新しい仲間を作れたことです。ここで知り合った仲間たちが、いつも私を助けてくれました。このことを知ることができたのは、本当によかったと思います。
 (注)原文は英語ですが、アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局で和訳しました。

リーディング起業家創出事業についてのお問合せは…

リーディング起業家創出事業に関する詳細については、下記のアカデミア・コンソーシアムふくしま事務局までお気軽にお尋ねください。



アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局
 (福島大学 地域連携課内)
 業務時間 平日 8:30~17:15(12:15~13:15は昼休み)

〒960-1296 福島市金谷川1番地
 国立大学法人福島大学地域連携課内
 電話:(024)548-5295 Fax:(024)548-5296
 E-mail:acf@adb.fukushima-u.ac.jp
 URL:http://acfukushima.net/

れんけい 臨時号

令和元年度
 福島県リーディング起業家創出事業 特集号

令和2年3月23日 発行
 発行 アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局
 〒960-1296
 福島市金谷川1番地(福島大学 地域連携課内)
 電話 (024)548-5295
 メール acf@adb.fukushima-u.ac.jp
 URL http://acfukushima.net/



1 リーディング起業家創出事業の概要について

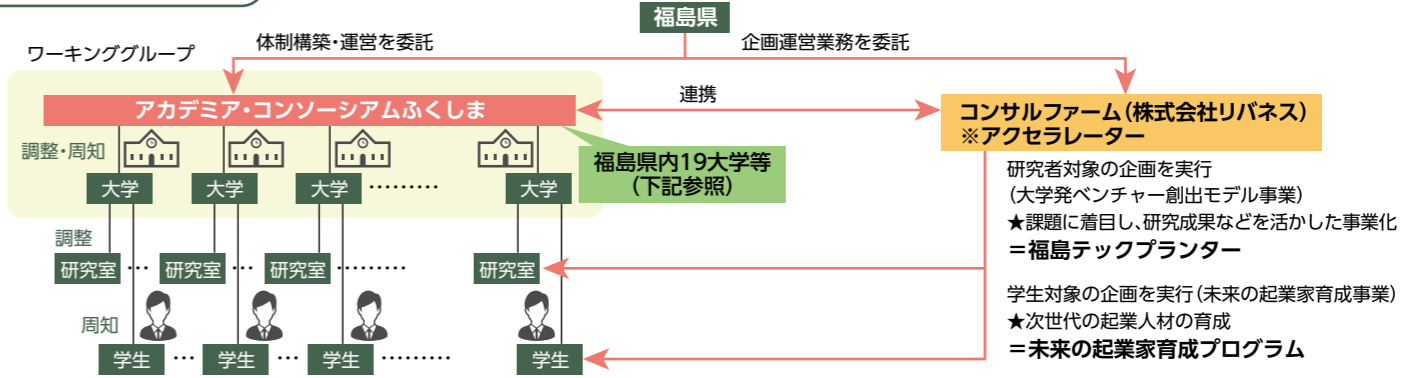
福島県リーディング起業家創出事業とは

いま、新しい産業の創造や雇用の創出のために、大学発ベンチャーへの期待が高まっています。しかし、福島県内の大学等による大学発ベンチャーは、年間0件~2件程度と、少ない状況で推移しています。
 これを受け、福島県では平成30年度より、アカデミア・コンソーシアムふくしまの加盟大学と共に、起業意欲の醸成、大学発ベンチャーの候補の発掘、事業の立ち上げ支援までを一体的に実施し、そのロールモデルを創出す

る事業(大学発ベンチャー創出モデル事業)を展開しており、まもなくその3年目を迎えようとしています。これまでに既に法人発足に至った大学発ベンチャーもあります。
 また、こうしたロールモデルには続く次世代の育成が欠かせません。そのため、次世代の起業家人材を輩出するべく、大学在学中にアントレプレナーシップを持った学生を育む事業(未来の起業家育成事業)も同時に展開しています。
 こうしたことを推進するべく大学発ベンチャー創出エコシステムを形成することを目的としたのが、福島県リーディング起業家創出事業です。

取組の推進体制について

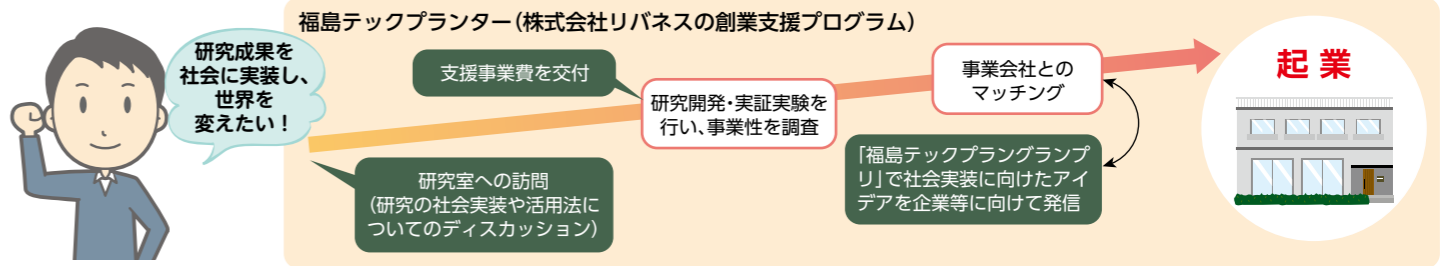
大学発ベンチャー創出に向けた、県内初の全体的な取組体制を構築しました！



アカデミア・コンソーシアムふくしま 構成機関

取組の概要について

★大学発ベンチャー創出モデル事業 [研究者対象]



★未来の起業家育成事業 [学生対象]



2 大学発ベンチャー創出モデル事業について

大学発ベンチャー創出モデル事業では、福島県内において新たな産業が生まれる環境をつくることを目指し、産業創出のロールモデルとなる県内大学発ベンチャーの創出に取り組んでいます。福島県内の大学や企業には科学技術を社会に還元したい、世界を変えたいという想いを抱いた研究者がいます。本事業ではこのような研究者や企業を発掘し、社会実装・事業化に向けて支援します。

Step 1 研究者との面談 福島県内の研究と研究者の想いを知る

福島県内の研究者や企業から、これまで取り組んできた研究や解決したい社会課題などについてのビジョンを伺いつつ、研究や社会実装を進める上での課題や不足している要素を洗い出すなど、株式会社リバネスが全国に持つ研究者や企業の知識プラットフォームを活用します。アイデアの実現につなげる一歩として、福島テックプランターへのエントリーを促し、社会実装につなげるビジネスプランについてディスカッションします。

伴走型支援の例
研究成果の分野を超えた活用の可能性や関心を持ちそうなパートナー企業の提案

Step 2 研究者と企業のマッチングと 株式会社リバネスによる伴走支援 研究者の想いを実現するパートナー企業探しと、 事業化に向けた支援を行う

世界を変えるビジネスはたった一人の熱から始まります。研究者の持つ課題感や課題解決に繋がる研究成果やアイデアに対して、共に研究、実証実験、商品開発や量産を行いたいという企業との出会いや共感の場として、福島テックプランングランプリを実施します。地元福島を中心に新しい事業を開拓したいという企業が集まる場で、研究のビジネスアイデアを発表し、資金による支援だけではなく、知識や技術も共有しながら社会実装を実現できるパートナー企業や支援者とのマッチングを行います。

伴走型支援の例
専門外の人にも研究成果の活用法や可能性を伝え、共感やマッチングにつながるコミュニケーションの支援

Step 3 事業化に向けた創業支援 何も知らなくても始められる創業への第一歩

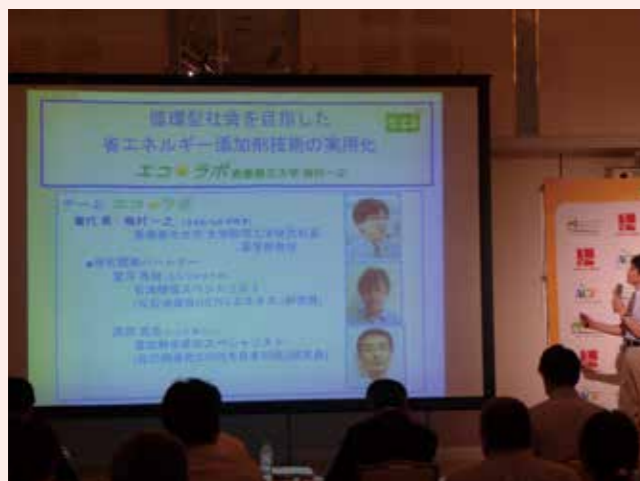
福島テックプランングランプリに参加し、パートナー企業とのマッチングやアイデアのブラッシュアップを行った後は、開発プランや知財戦略を組み立て、実際に動き始めます。研究者の意志が尊重されるよう、法人設立や知財に関する特許事務所とのコミュニケーション、企業との契約などもしっかり支援します。創業後に頭を抱えることの一つが知財戦略です。しかしこの事業では、特許事務所との橋渡しも行い、創業を加速します。

NEWS

第2回福島テックプランングランプリを開催しました！

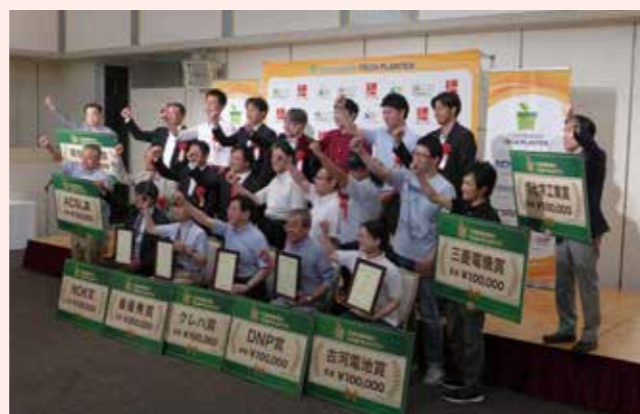
令和元年7月27日(土)、郡山ビューホテルアネックスにおいて「第2回福島テックプランングランプリ」を開催しました。これは福島県リーディング起業家創出事業の中で株式会社リバネス、福島県と共に推進している、大学教員等の研究シーズと企業をマッチングさせ社会実装するための「福島テックプランター」のマッチングイベントとなります。

およそ100名が来場する中、最終選考まで残った9チームによる熱のこもったプレゼンテーションが行われました。



▲プレゼンテーションの様子

企業等で構成された審査員による審査の結果は、右記のとおりです。当日は9チームによるプレゼンテーションが始まる前に株式会社人機一体の金岡博士長による基調講演が行われました。また、プレゼンテーションの後もライトニングトークやポスターセッションなどを通して、研究者と来場者が意見を交わしました。



▲最終選考会のプレゼンター

《令和元年度大会 最終選考会プレゼンター》

- 雑草エナジー ☆古河電池賞
【代表】鈴木 美乃里 (福島大学)
- エコラボ ★最優秀賞 ☆NOK賞
【代表】梅村 一之 (医療創生大学)
- 高機能バイオマス炭製作所 ☆堺化学工業賞
【代表】浅田 隆志 (福島大学)
- J-Acoustics ☆菊池製作所賞
【代表】長尾 光雄 (日本大学工学部)
- アイガモツ ☆ACSL賞
【代表】成瀬 継太郎 (会津大学)
- Weavgent ☆クレハ賞 ☆DNP賞
【代表】横内 裕二 (福島県立医科大学)
- ロハスのトイレ 【代表】中野 和典 (日本大学工学部)
- 道守 【代表】江本 久雄 (福島工業高等専門学校)
- 株式会社岩谷技研 ☆三菱電機賞
【代表】岩谷 圭介

3 未来の起業家育成事業について

未来の起業家育成事業で実施する「キャリアディスカバリープログラム」は、福島県内の大学等に在学する学生を幅広く対象とし、社会の課題に対する解決策を考えるワークショップを開催したり、シンガポール視察等を実施することで、学生の起業家精神(アントレプレナーシップ)を醸成し、未来の起業家人材の層を拡大することを目指す事業です。

Step 1 キャリアディスカバリー・セミナー兼本プログラム説明会 世界の課題解決に挑む、先輩の話聞いてみよう！

学生各々のキャリア観を広げることを目的に、県内4会場で先輩アントレプレナーの講演を学生が聞くセミナーを実施しました。各会場の講師は下記のとおりです。
【福島会場】酒井 里奈氏 (株式会社ファームステーション 代表取締役社長)
【郡山会場】井上 翔介氏 (株式会社自律制御システム研究所 (ACSL) 事業推進ユニット・カスタマーリレーション ディレクター)
【会津会場】水口 佳紀氏 (株式会社メタジェン 取締役CSO)
【いわき会場】金岡博士 (株式会社人機一体 代表取締役社長)

Step 2 キャリアディスカバリー・ワークショップ 自分を知り、やりたいことを見つけよう！

キャリアディスカバリーセミナーに参加した学生のうち、世の中の課題を解決し、世界を変えたいという学生を対象に、課題感を言葉にし、解決策を練るワークショップを実施しました。

Step 3・4 シンガポール視察研修に向けた事前研修 自分のアイデアを磨き上げよう！

キャリアディスカバリー・ワークショップの参加者から選抜をし、9名の学生を対象に課題解決のための仲間を巻き込み、チャンスをつかむためのプレゼンテーションをつくる事前研修を2回実施しました。

Step 5 国内視察研修本番！ 新しい世界に飛び込み、東南アジアの課題を知ろう！

新型コロナウイルスの影響で、急遽シンガポールに行くことができなくなりましたが、日本国内で世界の課題解決に取り組む企業やベンチャーキャピタルを訪問しました。学生各々が練り上げてきた課題解決策の提案を企業関係者を対象に行い、フィードバックをいただきました。訪れた企業等の数は6機関。鋭い意見をいただき、その都度、学生たちは目まぐるしい勢いで成長しました。

Step 6 成果報告会&ビジネスピッチ 国内視察研修で得たことを基に、成果をシェアしよう！

参加学生の抱負

研修初日、東京に向かう車中で、学生たちにそれぞれの抱負を尋ねました。

会津大学3年 永田 智視

これまで自分の「やりたいこと」をプレゼンするために、誰がステークホルダーなのか、ソーシャルニーズは何か、など「やりたいこと」の根本を突き詰めて準備をしてきました。これから外部の人にアイデアを伝える時に上手く伝えられ、共感してもらえるかとても不安に感じています。ですが相手に動いてもらうことを意識し、アップデートしながら作っていきたくと思っています。そのために、すぐにフィードバックをもらい、アウトプットできるように頑張りたいです！

福島大学2年 沼部 一輝

いよいよ当日です。ここまで自分のプランを何度も何度も見直し、磨きをかけてきました。まだまだ足りない部分はあると思いますが、現在の自分ができる限りの提案を用意したつもりです。日本国内での研修となってしまうかもしれませんが、自分だけでは訪れることのできない場所だらけです。3日間、さまざまなものを見て吸収したいと思います。

福島大学1年 長岡 瞬

新型コロナウイルスの影響で、シンガポール研修が中止になったときは非常に残念でだいが落ち込みました。正直な話、モチベーションも下がりました。しかしながら、いつまでも沈んだままではいけないので、色覚異常者をはじめとする身体障がい者でも自由に夢を追える世の中にする]をテーマに、これから3日間に渡って予定されている東京都内での研修を誰よりも有意義なものにできるように、誰よりも熱意を持って取り組んでいきたいです。吸収できることは全て、余すことなく吸収していくつもりで全力を尽くします。

日本大学工学部1年 坂田 純武

私が今回の研修に参加するにあたってまず考えたのは、起業するとは何かということです。今までは会社として利益を上げることが1番の目的だと思っていました。しかし今回の研修では世界を変える何かを見つけるというのがテーマです。違った視点で起業について考えることで、今後の自分の成長に活かしたいと思います。



notice

当初はシンガポールに渡航して現地での研修を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、現地での外国人の受入ができないということで、企画を大幅に変更し、令和元年度は東京都内で研修を行うこととなりました。